

5. ニシン^{たてあみ}建網^{かいりょう}の改良

この時期に、ニシン^{たてあみ}建網^{ゆきなりあみ}は行成網^{かくあみ}から角網へと大きく

^{かいりょう}改良(※43)されました。

^{かくあみ}角網は、^{めいじ}明治18年(1885)に発明され、^{めいじ}明治23年(1890)に

使用の^{きよか}許可^えを得てから急速にニシン^{りょう}漁^{ふきゆう}が普及(※44)しました。

^{すはらぎよば}留萌の^{めいじ}栖原漁場では、^{めいじ}明治12~13年(1879, 80)頃に^{ごろ}積丹^{しゃこたん}

^{ふるびら}古平あたりへ^{りょうし}漁師^{はけん}を派遣(※45)し、^{かくあみ}角網を習わせ、^{めいじ}明治24

年(1891)から^{かくあみ}角網が使用されました。

※43 ^{かいりょう}改良

^{ふじゆうぶん}不十分なものを^{あらた}改めて、^{いっそう}一層良くすること。

※44 ^{ふきゆう}普及

広く^{いっばん}一般^{わた}に行き渡ること。

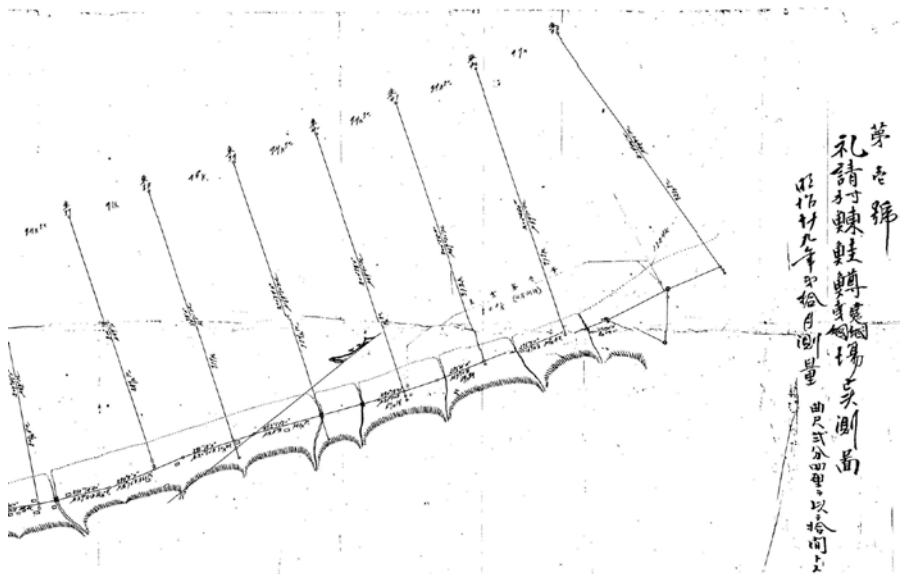
※45 ^{はけん}派遣

^{めいれい}命令して、^さ差し向けること。

めいじ 明治29年(1896)には、全道のニシン^{たてあみ}建網^{とう}4,997統のうち
^{とう}1,974統が^{かくあみ}角網となりました。

^{かくあみ}角網が^{ゆきなりあみ}行成網より多く使用されるようになったのは、
 めいじ 明治30年(1897)頃^{ごろ}のことで、ニシン^{たてあみ}建網^{とう}6,157統のうち、
^{かくあみ}角網は^{とう}3,017統となりました。

大正3年(1914)の留萌では、ニシン^{たてあみ}建網^{とう}3,159統のうち、
^{ゆきなりあみ}行成網は^{やく}約^{とう}70統となっています。



めいじ 明治29年の礼受の建網場^{たてあみ}